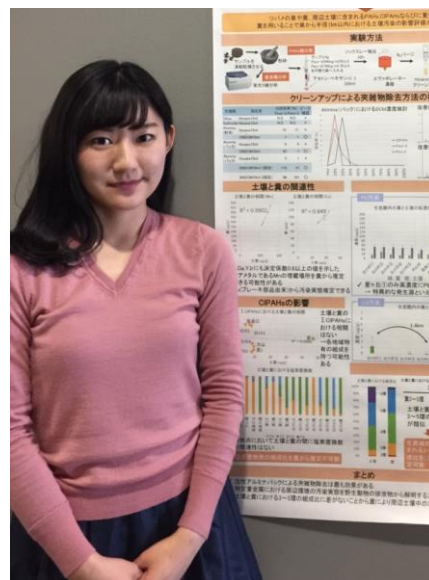


平成 29 年 3 月 24～27 日の間、仙台で開催される日本薬学会 第 137 年会で、農学部生物環境科学科環境分析化学研究室に所属する 4 年生の今枝千尋さんの研究成果『ツバメの生息域における重金属並びに多環芳香族類汚染の影響』が講演ハイライトに選出されました。講演ハイライトは、数ある演題の中から日本薬学会によって報道機関向け広報資料として選ばれたものであり、今回は 66 題がエントリーされた環境・衛生系薬学の環境科学の部門の中から唯一の選出となりました。



本研究では、ツバメの糞は周辺土壌の汚染の影響を強く受けていることを明らかにしたことで、これまで煩雑であった土壌サンプリングの過程を軽減できることが期待されます。土壌汚染に大きな関心が寄せられる昨今、本成果は今後の環境汚染評価だけではなくその周辺環境の生態系評価にも繋がる先駆的な研究成果です。

環境・衛生系薬学	環境科学	有害化学物質・重金属
<h2 style="margin: 0;">ツバメの糞で土壌汚染を診る</h2> <p style="text-align: right; margin: 0;">〔名城大農〕今枝 千尋</p> <p style="margin: 10px 0;">ツバメの行動圏は巣から半径1km以内とされています。我々は、ツバメは行動圏内の環境汚染の影響を受けやすいと考え、ツバメの糞と巣について周辺土壌の汚染度と共に調べました。その結果、ツバメの糞と土壌の重金属汚染の様子に関連が認められ、特に汚染源に近い場所にいるツバメの糞ほど顕著な影響がみられました。このことから、今後、野生動物の排泄物を用いて周辺環境の汚染実態を知ることが期待できます。</p>		
27F-pm06S	ツバメの生息域における重金属並びに多環芳香族類汚染の影響	